





指定校番号	29039	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立七尾中学校	校長	藤井 哲也	生徒指導主事	志茂 孝昭
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『ほめほめの木』
取組のねらい	『キーワード 認め合う』
<p>○子ども同士の関わりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して子どもの「自己有用感」を高め、いじめ等の問題行動の未然防止や学ぶ意欲へと繋げていく取組として、生徒間や教職員による肯定的評価活動を活発に行う。そのことを通してお互いを高め合うこと、信頼関係を築くことにつなげ、生徒相互及び教職員と生徒の共感的、親和的な人間関係づくりを促進する。</p>	
身に付させたい資質・能力	
<p>○人とのかかわりを大切にする教育活動を様々な教育活動で実践していく中で、お互いのよさに気づき、伝え合う取組を通して、自己だけでなく他者を尊重しあい互いを伸ばし合うことができる。</p>	
取組の具体的内容	『キーワード 委員会活動を通して全体に周知』
<p>○ほめほめカードを個人や学年、クラス対象に書く。 (定期的な学級委員会の呼びかけや各行事等を通して行う)</p> <p>○各クラスに配付された模造紙に、ほめほめの木(カードを貼る木)を生徒が描く。 (4月〇日に模造紙配付、4月〇日までに準備を完了する)</p> <p>○個人のほめほめカードを貼る台紙(レモン：美術部へ依頼)をほめほめの木に貼る。</p> <p>○個人に書かれたほめほめカードを台紙に貼る(各クラスで貼る係、担当を決める)。</p>	
	
取組の課題・創意工夫	『キーワード かかわる場と承認の場づくり』
<p>○学校行事との関連<BIG ほめほめカード (異学年交流)></p> <p>体育祭や文化祭を振り返り、学年を超えての仲間づくり、学年間の団結力や一体感を深め、学校全体としての仲間づくりをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭：結団式や縦割り種目、解団式、当日までの取組や準備など、思いを「一文字」で表わすとともにエピソードなどをほめほめカードに書いて贈り合う。 ・文化祭：異学年・同学年での合唱練習のときや、文化祭終了後に縦割りではめほめカードを贈り合う。 <p>○学級活動へいかす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の帰りの会(通常+10分)で、話し合い活動やほめほめカードの交流を行う。 ・席替えの際、これまでお世話になった班の仲間にメッセージを贈り合う。 <p>○いじめを生まない風土づくりに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止に向け、生徒会執行部から呼びかけるとともに、お互いにされると嬉しいサービスをし合う取組「ほめほめシークレットサービス」を実施した。 <p>○感謝の気持ち・歓迎の気持ちを込めて</p>	
  	

- ・卒業する3年生へ感謝のメッセージ、
新入生への歓迎のメッセージ

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感』

○体育祭では、練習を重ねるごとに声をかけ合う姿が多く見られるようになり、本番では縦割り種目以外でもお互いに応援し合ったり、3年生のソーランなど一緒に取り組もうとする姿が見られた。また、お互いに贈り合ったBIGほめほめカードを嬉しそうに眺める姿が各教室で見られた。

～体育祭感想～

2年：3年生のみなさんは、前日の準備、いろいろな取組で、私達をひっぱってくださいました。とても心強かったです。先輩方は、何事にも挑戦し、やり遂げていて、その姿は、私にとってはとてもかっこよく映っていました。先輩達の背中を見てどうしたらいいのかも分かったし、すぐ行動に移すことができました。先輩方と繋がれた瞬間はとても嬉しかったです。ありがとうございました。

1年：最後の体育祭、たくさんの役割がある中、私たちのお手本となるような姿を見せてくれて、私たちも3年生をこえるぐらいすばらしい1年生になろうと思いました。涙を流している人も見かけました。それほど責任がかかっていたんだなと思いました。本当にお疲れさまでした。学年をこえて、これからも仲良くしてください。

○ほめほめシークレットサービス

シークレットサービスを行うことで、いじめ未然防止に向けた気運の醸成が図れた。取組に対する生徒の評価は、①「人のために行動してみて」、②「人からされて」ではそれぞれ肯定的評価①87%、②86%、否定的評価①13%、14%、主な感想①・小さな気配りができた。・困っている人を見つけられるようになった。・気づかなくても人のために行動するのが嬉しいことだと思った。②・今まで気づかなかった優しい行動に気づくことができた。・次は自分から何かしてあげようという気持ちが湧いた。

～ほめほめシークレットサービス感想～

・見えていない所でも人の役に立つということは大切というのが分かりました。これからも見えている所や、見えていない所でも行動していきたいと思いました。

・気付かない所で良いことをしても目に見えなかったけど、今回は目標があって、きっかけになった。とても楽しかったので来年もあってほしい。みんなが進んでよいことをすることで、うれしい気持ちになった。

・どんなことでも自分が嬉しいと思うことをされると気持ちがいいし、その人との仲も深まると思うのでもっと人にいいことをたくさんしようと思いました。もっとお互いがサービスし合って、このクラス全体がよくなればいいなと思いました。

・人に喜んでもらえたり、自分から人が喜びそうだな、と思うものを行動して、すがすがしい気持ちになったり、ふだん見なかったことも見るようになったりと、変わることができました。とてもうれしくなり、気持ちがポカポカしました。

今後の展開『キーワード 自己有用感・小中連携』

○本年度より中学校区小中一貫教育協議会において各小学校の「ほめほめ」の取組を「小中一貫教育だより」で紹介し合い、小中を通して「ほめほめ」の心を繋げていく取組を始めた。各校で行っている「ほめほめ」を小中の垣根を越えて実施できる場を設けたい。

他校へのアドバイス『キーワード 守る伝統 築く伝統』

○「ほめほめの木」は十数年続く伝統となっている。しかし教員が変わることによって取組が形骸化したり本質が失われたりすることがある。地域に根付く学校としてこれまで大切にしてきた伝統は教員同士が連携して繋いでいくとともに、生徒同士が引き継いでいけるよう支援が必要である。さらに生徒の実態に合わせて新しい試みに挑戦していく必要もある。地域の声や生徒の声をじっくり聴き、生徒の発意や発想を生かして生徒が活躍できる場や機会を意図的、計画的に設定し、様々な視点から評価することで自覚と活動意欲が高まる。教職員全体で共通理解を図り、学校として生徒会活動を推進していく体制づくりを行うことで生徒会活動の活性化と豊かな学校文化の創造につながっていくものと思われる。